

所属	生涯福祉研究科	生涯福祉専攻	修士課程	修了年度	平成 28 年度
氏名	李 蕊			指導教員 (主査)	千葉 茂明

論文題目	中国・天津における両親の出稼ぎによる「留守児童」の現状と課題に関する研究
------	--------------------------------------

本文概要

1. 研究目的

「全国農村留守番児童状況研究報告書」(2005 年)の統計資料によると、中国農村の留守児童は約 5,800 万人に達し、全国の児童数の 21.7%を占めている。このうち 14 歳未満の児童は約 4,000 万人だった。2005 年以降もその数は増え続け、現在では農村児童の 4 人に 1 人が留守児童だと言われている。本研究では中国・天津市薊県における留守児童の生活現状を明らかにすることが目的である。

2. 研究方法

1) アンケート調査

中国・天津市薊県出頭岭郷朱官園村に所在している可口可樂希望小学校の三、四、五年生に 2015 年 7 月 15 日から 7 月 18 日まで、4 日間をかけてアンケート調査票の配布回収を行った。

2) インタビュー調査

五つの留守児童家族を訪ねて、祖父母に訪問面接法でインタビュー調査を行った。対面式で無理のないように、常に相手の意向を確かめながら実施した。

3. 研究結果

(1)本調査の留守児童たちの両親は大体「30-40 代」の中卒者に集中しており、全体的に学歴が低いことが分かった。(2)留守児童たちは 9 割以上が祖父、または祖母、または祖父母と住んでいることが分かった。(3)90%以上の留守児童が「家でたたかれたことがある」のに、今の生活に「満足している」留守児童が 88%で、「不満足を抱えている」留守児童は意外に 1 人もいなかった。(4)大部分の祖父母たちは留守児童の勉強の指導ができなく、経済的に生活を維持するだけで精一杯であり、ストレスが高いことが明らかになった。(5)半分以上の祖父母たちは留守児童の親から生活費をもらえなく、自分自身も借金やお金の悩みがあることが分かった。(6)更に注目されるのは留守児童及び留守児童の面倒を見ている祖父母たちは、生活問題などを相談できるところがない。村委員会の村民の生活問題の相談及び支援の役割、学校の放課後留守児童に対しての勉強の指導の役割が非常に大事だと考えられる。

4. 考察と今後の課題

本研究で明らかになったのは、日本のような「健全育成」から考えると、留守児童たちは「家族と一緒に住む」という基本的なことをまだ保障されていない。これは、中国の「経済格差」の影響で、留守児童家族は貧困から脱したい希望が強烈であり、このような留守児童家族への経済的支援及び教育的支援などがこれからの重要な課題である。また、現在の中国はますます格差社会に向かっており、農村地域の発展はまだこれからであり、農村地域において、経済的でも、学校の教育問題でも、子供の健全育成でもまだ日本のように至っていないことが分かった。中国の児童福祉領域において、いろいろな政策が存在しているが、実際は日本の児童福祉のように実施に至っていない、実行性のある取り組みが必要であると考えられる。